

# 金属と陶芸を融合させた作品制作の研究

総合科学研究科総合文化学専攻

アート発信プログラム

G0219005 ZHAO LINYI

## 要旨

### 1. 研究目的

現代の陶芸は、伝統的な陶芸の利点を継承するだけでなく、さまざまな素材を柔軟に使用して、より革新的で自由な面白みのあるものになっている。それは伝統的な陶芸の固有な概念を覆した。また、美しさを人々に届け、陶芸により多くの可能性をもたらした。現代の洗練された技術と相まって、陶芸はより良い発展を遂げた。陶芸と多様な素材との組み合わせは、現代社会の発展とともに生まれたものである。しかし、現代の陶芸が活発な発展をしていく中で、金属と陶芸を融合させた作品は少ない。そこで本研究の目的は、金属と陶芸の特性を理解し、造形の違いを柔軟に適用することで、これらを組み合わせた新しい表現形式を探求することである。また、金属と陶芸を融合させることで、芸術的な表現を豊かにすること、さらに新しい豊富な視覚的表現、また趣のある花器の制作を目指す。将来的にもこの研究を活用し、花器だけではなく陶芸品も制作する。

本論文の構成としては、第一章で研究の背景と目的を述べた。第二章で金属と陶芸を融合させた先行研究の実例と考察を比較・分析し、新しい効果的な融合の方法を提案した。金属と陶芸を融合させる新しい表現形式を探求し、研究の方向を明確にした。第三章で融合過程における問題を分析し、効果的な解決策を考え、研究のデザイン、材料の選択および制作方法を確立した。また、金属と陶芸を融合させた関連研究作品を制作することを述べた。第四章で展示について詳しい内容を、続く第五章で本論文のまとめと今後の展望についての考えを述べた。以下はより具体的に修了制作を詳述する。

### 2. 金属と陶芸を融合する問題点

金属と陶芸の融合の実現には、多くの問題点がある。金属と陶芸の制作は、いずれも火力を用いる技術であるが、2つの材料は物理的および化学的特性の点で大きく異なる。金属は始めに高温で溶かされ、鋳造された後、冷却・成形・研磨・着色の順で加工される。一方で陶芸はまず室温で成形・研磨し、その後釉薬を塗布し、最後に高温で焼成し完成である。すなわち、金属と陶芸では工程が真逆になるのである。

### 3. 研究方法

金属と陶芸の特性を理解し、造形の違いを柔軟に適用することで、金属と陶芸を融合させた新しい表現形式を探求するため、修了制作において以下の手順で研究を進めた。

- ① 先行研究を探す
- ② 研究テーマを決める
- ③ 作品の設計図の考え
- ④ 『材料』と『焼成方法』の選択
- ⑤ 試作品を作る
- ⑥ 計画の再検討
- ⑦ 最適な流し込む方法の再検討
- ⑧ 最適な流し込む形状の再検討
- ⑨ 花器の制作
- ⑩ 修了展示

まず、先行研究を探して、自分の研究方向を決める。デッサンや試作品を作ってから本番の作品を制作する。最後に修了展示をする。

#### 4. 結果

本研究では、陶器の耐熱温度の限界を突破しなく、低融点金属と陶芸を融合させる方法で海をテーマにした三つのセットの作品（『梦中的鱼群』（夢の魚の群れ）、『生命的遗迹』（生命の遺跡）、『珊瑚的化石』（珊瑚の化石））を制作した。

#### 5. 結論

本研究を通して、陶器に刻まれた溝を使用し金属を直接流し込み、バーナーで陶器の溝を溶かすことで、金属と陶芸を融合させた作品を制作することができるということがわかった。研究が進むにつれ、金属と陶芸の融合を実現するためのより良い方法を見つけることができた。これらの融合により、陶芸の装飾の新しい可能性を見出すことができた。また、金属と陶芸の融合は、材料の融合だけでなく工芸と工芸の融合でもある。

今後の展望としては、金属と陶芸を融合させた花器だけでは足りないなので、この融合方法で実用的な作品を制作する。